

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100399		
法人名	有限会社 稔りの安らぎ		
事業所名	グループホーム 稔りの安らぎ		
所在地	掛川市西大淵6803-2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県葵区中町24-2 若杉ビル2階		
訪問調査日	平成23年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

独自の生き方、個性を尊重してその人らしい過ごし方をしてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長は“仕事の中で何を一番大切にするか”を伝え、毎日の仕事を楽しく出来ること、積み重ねる経験の中で味の出る職員を目指して欲しいと職員に期待しています。職員は、利用者には細やかな気配りをして、フランクな話し合いを心がけています。職員の“やさしさ”が事業所の介護の力になっており、この1年退職者が無かった事等、環境の安定が優しい支援に結びついています。入所から退所まで「良かった」と言ってもらえる支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・毎月の職員会議で取組んでいる。 ・朝礼で基本理念を唱和し意識の高揚に努めています。	創設者の思いである“チームワークと学習”を理念とし、申し送りの時間に毎日唱和し、日々の支援に取り入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・10月に開催される横須賀の小さな文化展見学。 ・12月の地域防災訓練に職員1名と利用者2名参加。 ・地域の一員として日常的に交流は出来ていません。	犬の散歩の方の立ち寄りを歓迎したり、近くの民家を解放した展示会を見学時に住民や子供達とふれあいをしたり、防災訓練への参加など、地域の一員としての工夫をしています。	地域の人への呼びかけや、事業所の行事等への参加の誘いなど、今以上の関係作りを構築される事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・薬局、買物に行くところには、認知症の人の理解をしてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者の状況や介護の内容については話し合っていますが、サービスの評価、年度単位の重点目標等については話し合っていない。	多くの家族に参加して頂くため、土曜の午後や行事に合わせて開催している。利用者の状況報告や話し合いを行い、そこで出た意見を含む会議結果を職員会議で取り上げ、事業所全体での理解が見て取れる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・定期的には行なっていません。必要に応じて不定期で行ないます。	担当者には報告・更新申請時、またグループホーム連絡協議会開催時など、機会を捉えて伝え、連携がとれるよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践しています。	拘束をしない為のケア方法を話し合いの中で模索し、実践している。拘束しないリスクについて家族の納得が得られるまで説明をおこなっている。玄関は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・実践しています。 ・職員に対する学集会・研修会は実施していません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修、内部研修は実施していません。 ・活用の支援についても行なっていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・特に聞く機会は設けていません。運営推進会議で意見を聞くようにしています。	運営推進会議や面会時、または電話連絡の際に頂く意見要望を受け止め、職員会議に諮っている。家族会の開催も検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議で意見、提案を聞くようにしています。	全職員対象の月1回のミーティングに管理者、施設長、主任が出席して意見交換している。管理者は日々の会話のなかでも意向を聞き取って会議に提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・22年度は1名実践者研修参加。事業所内研修は実施していません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他の施設と定期的に交流を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・雑談、世間話等を積極的に行って、困っていること、要望、意見等を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・近況を電話で報告したり、面会時に状況を報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・課題分析を行なって、必要な介護、支援内容を把握してサービスを行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者から教えられる事も多く、共に感心したり喜んだりする事で、気持ちを通じ合わせるよう心掛けている。 ・生活を共にすることで、支えあう関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族が利用者を支えていただけるように、家族への働きかけを行なっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や知人が面会に来てくれるように雰囲気作りをし、家族に対しても協力をお願いしています。	馴染みが途切れないように家族にも協力を依頼し、馴染みの人、場所に接する機会を支援している。理美容・年賀状・手紙は希望があれば支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う利用者同士が中心に、和が保てるように勤めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用者、家族から相談があれば積極的に相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人その人なりの生き方に合わせた介護、支援を行なうようにしています。	日々の生活の中から、一人ひとりの希望意向を掴んでいる。入所前には、家族や本人から丁寧に聞き取りをし、支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に本人及び家族から、今までの生活歴を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人なりの価値観、性格等を十分に把握して介護するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画案を作成した段階で本人及び家族の意見を聞き、本人、家族の意見を計画に反映させるようにしています。	3ヶ月ごとに計画案を作成し、本人・家族と面談する。面談できない家族には、計画案とご意見伺い書を郵送し、家族の同意・意見を得ている。日頃から職員は、計画書の変更事項については記入し、ケース会議で意見を提案し、計画書確定に至っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・3ヶ月ごとに計画内容の評価を行ない、次の計画に反映させるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個別の状況に合わせた介護、支援及び要求に対応したサービスを行なっています。 ・サービスの多機能化は取り組んでいません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの演芸、年間3～4回。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・基本的には家族が通院付き添いを行なうようにお願いしています。通院の時にはバイタル表と本人の状況をメモして渡すようにしています。必要に応じて職員も家族と一緒に付添います。 ・家族が通院付添いが出来ない時は職員が付添って通院しています。	本人・家族の希望により、かかりつけ医は選べ、家族が付き添い、月1回の受診をお願いしている。家族が無理な場合は職員が付き添っている。受診の際は、身体状況の記録を渡し、役立ててもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職との連携は行なっていません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・主治医及び医療ケースワーカーと連携を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・状況に応じて家族に説明し、医療機関の利用や他の老人施設への移行についても支援をしています。	入所時に施設方針を説明し、書面確認している。食事が口から摂取できない等の状況変化に応じ、家族との連携を密にし、状況の共有に努めている。さらに治療が必要な場合には、病院を勧める等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・全職員が救命救急訓練を受講しています。 ・職員会議等で確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地域との協力関係は出来ていません。	施設内で訓練を実施している。	災害時には多くの協力が必要とされるので、先ず、隣接する会社や従業員の協力を得られる様な関係作りに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・本人の尊厳を大切にしプライバシーを尊重したこば掛け等に充分配慮している。	充分な聞き取り情報により、人格を尊重した言葉かけをしている。トイレ、交換をさりげない誘導でおこなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定を尊重した介護を行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の考えや希望を受入れて、個々のペースに合わせた介護、支援を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・散髪は2ヶ月に1回。身だしなみおしゃれは出来るだけ本人に合わせて行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事は職員と一緒に食べています。下膳は出来る人は行なっています。 ・調理、盛付けに関しては利用者は行なっていません。	食事の準備、片付けも楽しみにできるよう大切にし、意向を汲み取りながら、共同で出来る準備・片付けを行っている。職員も一緒に食事で笑いのあふれる楽しい時間を持っている。自分に馴染んだ箸、湯呑み茶碗を使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分摂取は出来ています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・1日4回の口腔ケアの支援を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・自立できていない人に対しては、個々の排泄間隔を把握してトイレ誘導することで、排泄の失敗を減らすように努めています。	排泄パターンや気配で誘導を行い、自立困難な人にも必ずトイレへ誘導する等、自立への支援をしている。夜間もオムツ使用の可能を含めて、睡眠状況で支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・受診して医師の指導を受け、薬の投与を行なっています。 ・水分摂取、繊維の多い食物の摂取に配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴の回数は夏は2日に1回、それ以外の季節は3日に1回入浴しています。	毎日準備をし、その人の希望や体調にあわせての個浴を行っている。楽しめるような声掛けをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の睡眠パターンに合わせた支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の副作用等を把握して十分に注意しています。状態の変化があればかかりつけ医に受診しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・潜在能力を引き出すように心がけ、活力のある生活を送れるように支援しています。 ・利用者、職員でトランプ、将棋等を行ない、裁縫、園芸も行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・本人が希望すれば毎朝外の駐車場に出て日光浴を行なっています。 ・天気の良い日にはドライブ、散歩を実施しています。	小人数での外出になるが、散歩、スーパー、100円ショップ等、希望に沿った楽しい買い物に付き添う。季節を楽しむドライブを行っている。敷地内が広いので、安全を考えながら、歩行や日光浴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・小遣いを個人で管理している人は2名。宝くじ、日用品を買う時は職員が付き添う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者からの希望があれば、代筆、電話を掛ける支援、外部からの電話には本人も出してもらうようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温度、湿度、採光管理に気をつけています。季節の花を飾って季節感を出すようにしています。	不快な刺激がないように空調管理に気を配り、テーブル、椅子の配置を希望を取り入れて、時折変える等、居心地の良くなるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・状況に応じてテーブルの席を替えたりしています。 ・音楽を聴いたりリラックスできるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の希望を取り入れ、家族の協力を得て行なっています。	温度、湿度の対応は個室ごとになっており、風通しも充分に出来ている。カーテン以外は本人や家族と相談して希望の家具が持ち込め、部屋の名札も自分の好みで反映できる様配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・少しでも出来る事は職員と一緒にこなうように努めています。 ・部屋に名札を付けています。		